

## 「わたしを束ねないで」定期テスト対策練習問題

年	組	番	名前
---	---	---	----

問1 「わたしを束ねないで」は、なんという形式の詩か、漢字5字で書きなさい。

問2 第一連の「あらせいとうの花のように」に使われている表現技法を次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：隠喩
- イ：擬人法
- ウ：反復法
- エ：直喩

問3 第一連の「わたしは稲穂」に使われている表現技法を次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：隠喩
- イ：擬人法
- ウ：反復法
- エ：直喩

問4 第一連の「大地が胸を焦がす」に使われている表現技法を次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：隠喩
- イ：擬人法
- ウ：反復法
- エ：直喩



問5 第2連の「標本箱の昆虫」、「高原からきた絵葉書」と対称的に書かれているものを詩の中から3字で書き抜きなさい。

問6 第3連の「日常性に薄められた牛乳」、「ぬるい酒」と対照的に書かれているものを詩の中から書き抜きなさい。

問7 ①「わたしを止めないで」②「わたしを注がないで」③「わたしを名付けないで」④「わたしを区切らないで」、それぞれに込められている作者の思いについて、最も適切なものを次からそれぞれ選びなさい。

ア：「つまらないもの」であるように自分を扱ってほしくないという思い

イ：自分には関係のないことへの責任を押し付けられたくないという思い

ウ：自分の思うように行動する自由を奪われたくないという思い

エ：女性であることで枠にはめられた生き方をしたくないという思い

オ：自分のもつ可能性を制限されたくないという思い

①

②

③

④

問8 この詩に使われている表現の特徴として、適切ではないものを次の中から選び○で囲みなさい。

ア：それぞれの連ごとに対照的なものを挙げることで作者の思いに対する印象を強めている。

イ：体言止めを使うことで全体を通してリズムを生み出している

ウ：各連の1行目に中止形を使い統一することで詩の印象を強めている

エ：各連の後半には倒置法が使われ、独特なリズムを生み出している

オ：同じ言葉が反復して使われ、リズムを生み出し印象を強めている



問9 この詩の主題として最も適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：自分が持つ可能性や自由を制限されずに自分らしく生きたい
- イ：過酷な運命から抜け出し平和で安全な暮らしがしたい
- ウ：自由を奪われ貧しい生活を送ることへの恨み
- エ：自分の可能性を押しつぶしてきた社会への怒り



## 「わたしを束ねないで」定期テスト対策練習問題（解答）

問1 **口語自由詩**

【解説】この詩で使われている言葉は、昔の書き言葉（文語）ではなく現在の話し言葉（口語）である。また、音の数にとくにきまりはないため、自由詩である。

問2 **エ**

【解説】比喩法のひとつで、「…ように」など、直接喩える形式になっているので直喩である。

問3 **ア**

【解説】比喩法のひとつで、「…ように」や「…ようだ」などの例えの形式にはなっていないので、隠喩である。

問4 **イ**

【解説】「大地」は人間ではないのに、まるで人間のように表現しているため擬人法である。

問5 **羽撃き**問6 **ふちのない水**

- 問7 ① ウ  
② ア  
③ エ  
⑤ オ



問8 エ

問9 ア

【解説】この詩でたびたび使われている「束ねる」「止める」「注ぐ」「名付ける」「区切る」などという言葉には、「制限される」「束縛される」「枠にはめられる」などの不自由な印象を受ける。作者がこの詩で訴えているのは、「不自由にされず、自由に自分らしく生きたい」という思いである。

